中国におけるBLネットドラマ表現の変遷と政策変化

HOU Jiaheng

グローバル化とフェミニズムの発展に伴い、改革開放後の中国では、多元文化が中国大陸で徐々に台頭しており、とくにインターネットの波に後押しされて、この傾向はさらに顕著になってきた。それを背景にして、中国の伝統的な大衆主流文化とサブカルチャーの間で避けられない衝突が起こっている。とりわけ、BL（ボーイズラブ）文化の発展がまさにそれを反映する代表的な例と考えられている。

本研究は、BL ネットドラマの誕生から終焉までの過程において、市場の受容と政策の圧力という二つの要素の影響を論証することを目指している。それと同時に、異なる発展段階におけるBL ネットドラマの表現と発展状況を整理し、背後の要因を分析する。最終的に、BL ネットドラマの発展過程を系統的にたどることになる。以下は各章の考察の要約である。

本研究はまず序章の中で、中日両国の BL 実写作品の発展過程の比較を通じて、仮説を立る。そして、本研究の研究目的を明示し、学術面と社会面から、研究意義を述べる。

第一章では、現代中国における異性愛社会の現状を把握し、先行研究で指摘された 2018 年までの、BL ネットドラマの発展傾向を検討する。そして、BL ネットドラマについての関連用語と概念定義を説明し、特に「耽美」ネットドラマと「耽改」ネットドラマの区別を明確にする。また、本研究で採られている方法として、文献調査、テクスト・表象分析と言語分析が挙げられる。

第二章と第三章では、文献資料に基づいて、2014 年から 2018 年までの BL ネットドラマの発展状況、表現形式と変化の原因を明らかにする。具体的に、2014 年から 2016 年にかけては、日本の BL 文化の発展、インターネットと商業の発達などの影響を受け、BL ネットドラマの萌芽と成長期であり、「耽美]ネットドラマを主な表現形式としている。次に、2017 年から 2018 年にかけては、政策面に影響された結果、「耽美」ネットドラマの混迷・転換期といえ、「耽改」ネットドラマを主な表現形式としている。その上で、時期の分布と特徴から「耽美」ネットドラマと「耽改」ネットドラマの関係を明らかにする。

第四章では、2019 年から 2021 年までに、BL ネットドラマが、大型商業資本参加による高品質化

と経済効果の向上という特徴を持ったことを明らかにする。また、この時期のBLネットドラマは「耽改」に分類できる。それとともに、この時期に、「耽改」ネットドラマへの出演が、新人俳優が人気スターへと転換する重要な経路となっているのは重要な特徴である。しかしながら、「耽改」ネットドラマがブームになってから、それに関するネガティブなニュースも相次いで出てきてしまう。それに伴い、政府もそれまでの態度を一変するようになった。

第五章では、テクスト・表象分析に基づいて、2020 年以降 BL ネットドラマの新たな変化──「耽美」の復活という現状を考察する。作り手へのオンラインインタビューを通して、「耽美」復活の原因は主に、BL を愛好するグループが自分の趣味を楽しむため、自主的に「耽美」作品を作成することにあると明らかになった。BL ネットドラマはこの時期に新たな変化を示したが、2022 年初期から、政策のさらなる変化と圧力によりによ、中国の BL ネットドラマはやむを得ず、終焉を迎えることになった。

第六章では、言説分析の方法を採り、BL ネットドラマに関する商業メディアと政府系メディアの報道を分析し、市場と国家という二つの立場から BL ネットドラマの変容とその是非について検討する。市場から見ると、BL ネットドラマが盛んな理由の一つとして、女性視聴者のニーズに合わせられていることが挙げられる。フェミニズムの発展や、女性の消費力向上とともに、消費市場の主体が女性へと変わりつつある。また、女性が社会的地位と発言権を持つようになってから、女性の「男性を消費対象とする」メディア表現に対する需要はますます増している。BL ネットドラマが満たしているのはまさに女性層の審美的傾向と「男性同士の愛情」に対する美しい想像／妄想といえる。国家の立場から見ると、2021 年以降、政府が耽美ネットドラマへの批判を強めた理由は、主に BL 作品の絶え間ない影響力の増大によるものであった。具体的には、BL ネットドラマへの批判は一般的に、その文化的価値観の側面に重点を置いているといえる。つまり政府は、BL ネットドラマが青少年グループに対して性的指向、結婚観・恋愛観と価値観に与える悪影響を懸念していると思われる。文化面以外にも、社会的な要因として少子化のジレンマなども挙げられよう。

終章においては、以下の結論にたどり着いた。BL ネットドラマの全体的な発展過程を振り返ると、BL ネットドラマの発展は終始、市場の受容による促進作用と政策圧力による抑圧的な作用という二重の影響を受けていたということが明白になった。こうした政策による規制は、中国社会における異性愛中心主義という主流文化と価値観が、規範的な社会意識を主導しなければならないという考えに結びついているためだと考えられる。